

水稻の適期刈取りに向けた技術対策

平成13年8月31日
21世紀米づくり日本一推進運動本部

1 生育概況

生育診断圃（農業普及課）や作況圃（農業試験場）の生育調査によれば、平坦部「はえぬき」の出穂期は、平年に比べ1日早い8月5日であった。主稈葉数は12.7枚で平年よりやや多く、穂揃期の葉色は34.2で平年よりやや淡かった。

県平均の出穂盛期は8月4日で平年より1日早く、前年より1日遅かった。特に、村山、最上地域では、出穂盛期は平年並で、出穂終期は平年より1~3日遅く、穂揃いに日数を多く要した。

穂揃期の生育調査（生育診断圃）によれば、平坦部「はえぬき」のm²当たり穂数は平年に比べやや多く、1穂粒数はやや少なく、m²当たり粒数は並であった。

また、一部の地域において8月からの低温による登熟等への影響が懸念される。

地域区分	出穂盛期			出穂終期		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
県平均	8.4	8.5	8.3	8.12	8.11	8.8
村山	8.6	8.6	8.4	8.12	8.11	8.8
最上	8.6	8.6	8.4	8.14	8.11	8.9
置賜	8.4	8.6	8.3	8.13	8.14	8.12
庄内	8.3	8.4	8.2	8.10	8.9	8.6

2 刈取り予想

8月の気温は平年より低く経過している。8月24日発表の東北地方1か月予報によれば、向こう1か月間の気温は平年並か高い、降水量、日照時間は平年並の可能性が大きいと予想されている。

地点名	月・日	出穂期		同日照時間(h)	950	到達日
		本年	準平年			
山形市	8.6	524	544	-20	99	9.16 +1日
新庄市	8.6	508	528	-20	104	9.17 +1日
米沢市	8.4	568	585	-17	110	9.14 -
酒田市	8.3	624	639	-15	181	9.11 -

注) 出穂後積算値: 8月28日現在

3 当面の技術対策

本年は、穂揃期間が長いため登熟のバラツキが生じ、胴割粒やうす茶米、未熟粒などの発生による品質低下が懸念されることから、地域毎の適期刈取り情報に十分注意し、刈遅れないことが重要である。

(1)早期落水の防止と刈取り準備

落水時期は、普通田で出穂後30日、排水不良田で25日、砂質系で保水の劣る水田では35日程度を目安とし早期落水は行わない。また、圃場の乾きが悪く刈り遅れになる事例が例年見られるので作溝の手直し等の圃場管理を徹底する。

(2)適期内刈取りの推進

刈取り適期は、出穂後の積算平均気温を目安に、「はえぬき」で950~1,200とするが、本年は穂揃期間が長かったため圃場内のバラツキが大きいことから、枝梗の黄化、青粒歩合、粒水分などを加味したきめ細かな対応を行う。また、早生品種も刈取り始期は950とするものの、終期は「はなの舞」が1,050、「あきたこまち」が1,100とする。

(3)適正な乾燥・調製に向けた対応

乾燥時は張り込み粒の水分測定を確実に行い、仕上がり玄米水分は15%になるようにし、選別は1.90mm網目(LLL)の使用を基本とし、整粒歩合の向上を図る。また、収穫・乾燥機械の整備点検、共乾施設の作業計画点検を早急に行い、適期刈取りに向けた万全な体制を整える。